

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-48

部門名： カリキュラムマネジメント実践部門	エントリー名： フォレストピア学びの森 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
活動名： 五ヶ瀬モデルの実現へ ～6 力年×協働による探究活動～	
解決すべき課題： 社会に開かれた『教育ロジックモデル（五ヶ瀬モデル）』の開発・実践 【学 校】全国発の公立中等教育学校として培ってきた 6 力年教育（感動と感性の教育） 25 年間で構築した地域協働による総合的な探究の時間（天と地と人に学ぶ知の統合化） 【社 会】「探究的な学び」の在り方に対する関心の高まり（新学習指導要領，大学入試改革）	
目標・方針：『真正性（リアリティ）× 普遍性（アカデミック）』→『探究（ワクワク）』への挑戦 【真正性】設立理念に基づきながら、地域に根ざした探究活動を通して真正性（リアリティ）を実感する学び 【普遍性】グローバルな視点に立ち、問いを軸とした探究活動を通して普遍性（アカデミック）を追究する学び	
活動内容： 自校と地域の「強み・歴史・価値」を活かした『五ヶ瀬モデル』【図 1】の作成と実践 ①H30 年度（SGH 最終年度・設立 25 年）を節目として，10 年後を見据えた校内 PJ を設置した ②本校が持つ社会的な価値（設立理念・教育ミッション）を議論し，「目指す生徒像」「育てたい資質・能力」を再設定することを通して，「総合的な探究の時間」の 6 力年カリキュラムを再編した 【図 2】 ③R01 年度より指定を受けている「地域との協働事業・グローバル型」を活用し，地域と協働しながら「総合的な探究の時間」を実践した ④生徒・地域の学びの変容を可視化（定量的評価）した ※三菱 UFJ による魅力化評価システムを活用	
活動の成果： 生徒・職員・地域の『共感・共汗』から生まれる探究的な学び（五ヶ瀬モデルの実現） ①創設理念や教育ミッションを共有することによって，全ての教育活動の「意味づけ」が出来た ②探究をテーマに研修を行うことによって，教科でも「資質・能力に根ざした授業」が展開された【写真 1】 ③コンソーシアムを構築し共に教育活動を行うことによって，「持続可能なカリキュラム」を開発できた ④評価システムを活用することによって，本校・地域がもつ「学びの土壌」の豊かさを確認できた【表 1】	
アピールポイント（アイデアや工夫）： 生徒・職員・地域が共に学び，共に創る（ワクワクの醸成） ① 6 力年の強みを活かし，「スパイラル型」のカリキュラムを作成した（個人×社会，問い×実践） ②職員が「理想」を語り合える雰囲気を作った（未来志向，安心安全の場づくり） ③学校外の関係機関と協働しながら「カリキュラム開発・実践」を行った（社会に開かれた学び）	

図 1 教育ロジックモデル（五ヶ瀬モデル）の作成

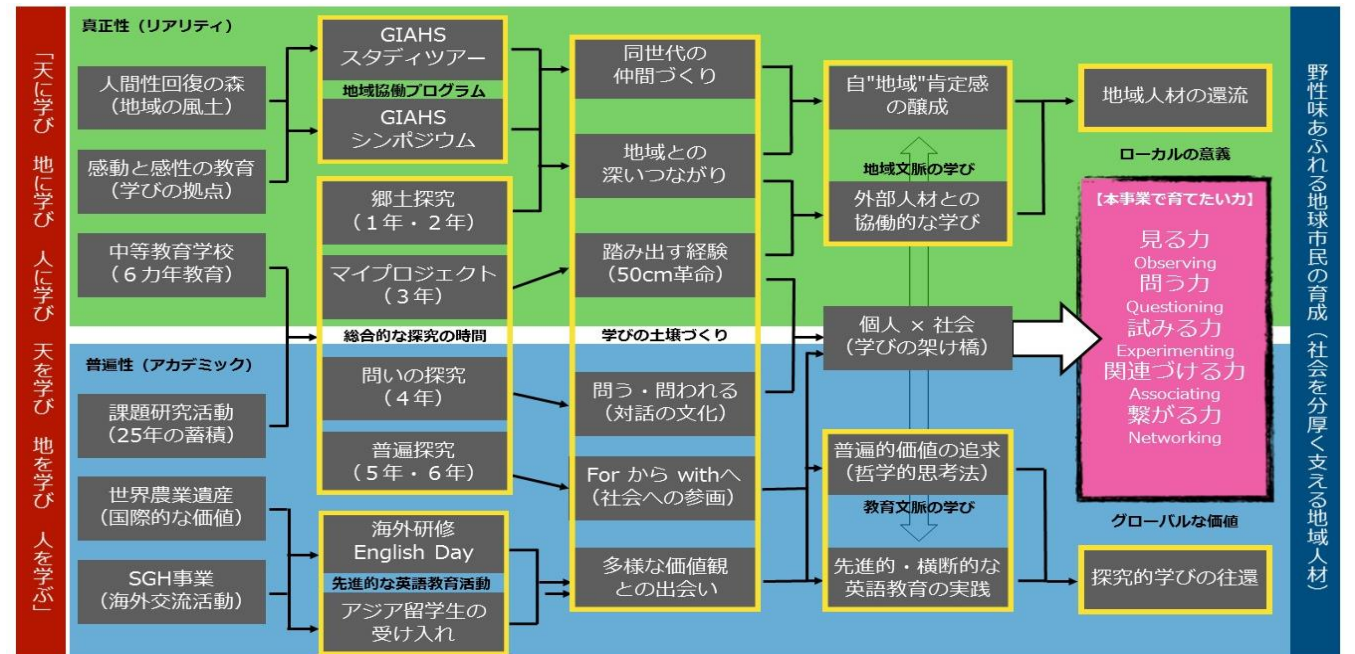


図 2 総合的な探究の時間 6 力年カリキュラムの再編



写真 1 資質・能力に根ざした授業例（数学：町広報誌を活用した統計）



表 1 三菱 UFJ による評価結果

学習活動の機会	本校	他地域
主体性に係る機会	85.1%	46.4%
協働性に係る機会	92.5%	70.0%
探究性に係る機会	90.3%	60.1%
社会性に係る機会	92.5%	43.6%

各項目に関する設問で「あてはまる」と回答した生徒の割合
※他地域とは「地域協働事業（文科省）の指定校」を指す